

# フィールド風

(現場)からの

宮田守男

毎年、3月は我が家の愛犬「ミルク」と雪原の散歩が楽しみの一つだ。方言なのだろうが、「野良渡り」と言われ雪国ならではの体験

だ。詩人でもあり童話作家としても知られる宮沢賢治さんの「雪渡り」の文中に、雪がすっかり凍って大理石よりも堅くなり、空も冷たいなめらかな青い石の板でできているらしいのです。「堅雪(かたゆき)かたゆきかんと、しみ雪しんと」。(中略)こんな面白い日が、またとあるでしょうか。いつもは歩けない黍(あは)の畑の中でも、すすまで一杯だった野原の上でも、すきな方へどこ迄でも行けるのです。と雪の野原であそんでいた四郎・かの子兄妹と紺三郎と言う名の一匹のキツネの場面を表現

している。スノーシューなどの用具を付けないでも、自由に歩き回れる楽しみ方を地域の皆さんは体験しているのだろうか。雪面に残る野生動物の足跡をたどると、動物の行動が見えてくるようだ。

## 日常の身近な自然の楽しみ方は 観光にとっても魅力的な資源だ

一般社団法人ペットフード協会が1994年から続けている犬と猫の飼育頭数が2017年は猫が953万匹に対して、犬が892万匹で猫が犬を初めて上回ったと発表した。散歩不要で飼いやすく、年間の経費が低額な猫が好まれているのも事実だ。2015年の猫の人気トップが雑種なのもうなずける結果だ。2008年から個人ブログや「ユーチューブ」「ニコニコ動画」などでペットの写真や動画が多数公開され、2009年には「猫カフェ」の開店が相次ぎ、2014年には空前の猫ブーム、経済効果は推計2兆円超とも言われ「ネコノミクス」だとの話題が沸騰。アイドルとなった人気者の、元祖ニャンドルの「はっちゃん」、和歌山電鉄貴志駅長に任命された「たま駅長」、「ブサかわ犬」として有名になった「わさお」、インスタグラムのフォロワー260万超、海外のファンも多い「柴犬・まる」など知る人も多い。平昌五輪の女子金メダリストのロシアのアリーナ・ザギトワ選手への秋田犬プレゼントの話題で日本犬の関心も益々深まるだろう。白馬では「白馬わんわんMAP」の作成や、

犬連れでもゴンドラに乗れてとても楽しいと好評な白馬岩岳、猫を前面にした「ねこ処みなみ家」をはじめ、多くの観光関係者が観光商品として犬・猫に着目している。大北地域が犬・猫にも、この地域を訪れる人にとっても魅力的な場所になればと期待している。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)

多くの犬だけでなく、雪原での遊びは犬だけに感動できる舞台になる

